

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット／1階)

事業所番号	2770801203		
法人名	アミコ株式		
事業所名	グループホーム いこいの守・東住吉		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田7丁目12番32号		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	令和4年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と家族のような信頼関係を作り、気兼ねなく相談できたり安心して生活が送れるような環境作りに力を入れ、事業所の理念をもっと笑顔の絶えない支援を目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「元気・やさしさ・誠実熱意で利用者の豊かな生活をサポートします」を理念とするアミコ(株)を事業母体とする当事業所は平成16年4月に開設された。事業所周辺は住宅や畑が点在し、近隣に公園や神社があり散歩時に地域の方と挨拶を交わして、地域の一員としての生活が根付いている。笑顔を絶やさず利用者に寄り添い、安心して生活が出来る支援を目指すと共に、家族との関係性を大切に信頼関係を保ちながら、家庭的な雰囲気環境作りに管理者・職員は日々真摯に取り組んでいる。外出が困難な現在は事業所内でのイベント・行事・レクリエーションに趣向を凝らし、直近の節分では新聞紙を丸めた豆で豆まきし、ひな祭りは職員の手作り衣装を各々が着て記念写真を撮っている。じゃんけん大会、紙コップのモグラたたき、ボーリング、巨大年賀状作り等の楽しみ事の取り入れや、事業所菜園での野菜作り(ナス・キュウリ・冬瓜・サツマイモ)で四季を感じ取っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・信愛・憩い」法人の基本理念を基に「初心忘れず・毎日笑顔で・寄り添う介護」を共有目標に実践を心掛けています。	職員で創った理念を1階の事務所に掲示して意識の徹底と確認を行っている。入職時には理念にある笑顔で寄り添うケアの趣旨について説明しているが、全体での共有のあり方やケアの実践の振り返りが課題としている。	理念をケアサービスの実践に活かせるように、実践の取り組み姿勢の確認時に意識する事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の夏祭りや敬老会に参加していたが行事が中止になったりとで交流をもつ機会がなくなっています。	自治会に加入し地域の新聞と情報を得ている。コロナ禍以前は地域の盆踊り、敬老会の催し物の参加や、ボランティアによる合唱・坊主めくりを受け入れていたが、現在は中止している。今は周辺散歩時に近隣の方と挨拶を交わして、地域の生活者としての交流があり、近隣の方で介護やグループホームの内容について相談に訪れる人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、運営推進会議を開催することができておらず、施設の現状報告をポスティングさせていただいています。	運営推進会議構成メンバー参加の実質会議開催は難しく、書面(事業所の現状・事故報告、行事・レクリエーション内容)での報告となっている。議事録は1階フロアの開示と地域包括支援センター、自治会長、民生委員に送付している。書面報告では参加メンバーからの意見・要望はあるが記載されていない。	会議の参加メンバーからの意見・要望・情報の意見収集を積極的にもらえるような工夫をし、多様な質問や課題に組み込みケアサービスの向上に繋げる事に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の担当ケースワーカーとの連絡を取るなど協力関係を築くようにしています。	区の高齢福祉課・介護課に事業所の現状と取り組み内容を伝え情報や指導を受けている。公的扶助受給者が8/16人いる。区のケースワーカーの訪問を受け、関係書類の手続き・現状報告等を通して協力関係を築いている。2ヶ月に1度のグループホーム連絡会や随時の講習会にはできる限り参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に3～4回、講習会を開催することで、互いに意見交換や理解を深めています。	年2回の研修と3ヶ月に1度の身体拘束適正化委員会を通して、内容の把握と理解の習熟に努めている。身体拘束適正化指針文書を整え、言動の遮りや不適切な言葉かけの際には職員間で注意し合っている。各ユニットのドアはナンバーロックの施錠をしているが、外に出たい要望があれば現場の職員人数を鑑みながら、周辺散歩や大きく開けたテラスに出て気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の意見交換や研修などを通して理解を深め、虐待防止に努めています。更衣時や入浴時に身体観察を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設での研修を通して理解を深めていくことに努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退去時には十分に説明を行い、ご理解を得て行うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族様の思いを逃がさないようにしています。面会時には直接お話をさせていただいています。	意見の表出が可能な人(10/16人)には日々の会話で聴き取り、家族には訪問時や電話で意見を把握している。病院退院後から徐々に身体回復の兆しがあり、臥床頻度を少なくしてフロアでの過ごす時間を増やして欲しいとの要望に応えている。毎月の心身の状態を記したお便りや随時の行事・日常写真の送付は家族から喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行っており、職員が意見や提案をしやすい環境を作っています。	毎月の全体会議で意見は活発に出る。シフトの関係で出席不可の職員には事前に意見を聴き取り、会議で検討している。日頃のケアでの気づきや提案はその都度管理者が対応し、取り入れ可能な事案は即改善に繋げている。嚙下状態の悪化の人の食事形態の変更、尿失禁が少なくなった人のパットを外す、転倒し易く歩行を敬遠する人の歩行器誘導の仕方などの意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務や行事に担当をつけ、なるべく偏りのないように努めています。 個々の特技を活かせるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修に参加していただいたり、参加できなかった方には資料を配布するなどしています。 分からないことは、その場で尋ねたり聞いてもらったりしながら学んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在が参加できていませんが、参加できる機会を増やしていこうと思います。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くため、コミュニケーションの中で情報や思いを汲み取り、不安や困りごとを減らしていけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や疑問を聴き取り、なるべく要望に沿えるよう信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のご本人・家族の状況を見極め、最善策を考えるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の残存機能を出来る限り維持しながら御本人と職員が疑似家族のような関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で家族様へ御本人の現状を伝え、今後のことを御本人・家族様・職員が一緒により良い対応策を話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は出来ていません。	コロナ緩和時期には、エントランスにて時間を5～10分程度人数を2名迄として面会を行っていたが、現在は窓越し面会となっている。以前の住居の友人・宗教関係の知人・幅広い親族の訪問の受け入れや、家族同行での墓参り外出など、コロナ収束後は再開したいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握し、孤立感を持たれないよう職員が輪の中心になり、輪に入りやすいよう工夫しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も予後の経過や相談などに応じ、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子観察を徹底し、御本人の要望を察するようにしています。	1対1になれる環境下(居室、入浴・散歩時)の際に、入居時のフェイスシートを基にどのように暮らし、何をしたいかの思いを聞き、内容を生活記録、業務日誌に記入し全体で共有を図っている。お寿司を食べたい要望が多く持ち帰りや、好みの弁当を利用して要望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活環境に近づけるために、違和感がないように努めています。情報を収集し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活状態を詳細に記録しています。その情報を職員で共有し、小さい変化を見逃さないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中で意見交換を行い、ドクターなどの意見も考慮しながらケアプランを作成しています。	生活記録、業務日誌、往診記録、看護記録を参考に1～2ヶ月毎のカンファレンスと3ヶ月に1度のモニタリングで検討し、短期6ヶ月・長期1年の計画作成を行っている。食欲がなくなったり転倒し易くなるなどのADLが低下した場合は、主治医の所見を参考にし、家族が同席して担当者会議で検討を行い、関係者全体で方針を統一した計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の勤務時間に合わせて毎日記入しています。 その場に居ない職員にも伝わりやすいようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な方面からのサービスを模索し、御本人・家族と相談し、多機能なサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医療機関以外にも希望があれば、馴染みの医療を選択できるようにしています。	全員が協力医療医を主治医として月2回、希望者は歯科医と心療内科医のそれぞれ月2回の訪問診療を受けている。他の専門科は家族対応を基本とするが柔軟に対応している。主治医による居宅療養管理指導は必要に応じて介護計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1～2週に1回を目途に看護師に診てもらい、御本人の状態と注意点などを聞くことが出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会ができないため、往診時などに情報を聴くなどしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人の終末期の希望を確認しています。ご家族・医師・職員との話し合いの場を作り、意向を尊重できる環境作りを行っています。	入居時に重度化・終末期対応の内容と、救急搬送時対応について説明し、同意を得ている。看取り介護については、関係者間で十分な話し合いを行い、容体変化に十分注意し、安心して穏やかに最期を迎えられるよう個別ケアに努めている。近時に2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡先や方法を電話の前に貼っています。そのため速やかに対応することができます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っています。	コロナ禍に在り、5・11月に大阪市による動画で訓練を行い報告書を提出している。一般的な災害マニュアルはあるが、最新の避難情報・ハザードマップの周知と、当事業所独自の防災対策についての見直しを行いたいとしている。1～2日分の備蓄と地域との協力についても、今後の課題としている。	立地条件・利用者状況・職員体制などを考慮した各種災害対策の作成と、複数回の訓練を望む。命と生活を守るための各種備蓄品の再検討と、改正で求められるBCPに備えての地域協力体制づくりへの努力に期待する。コロナ禍前の地域防災訓練に参加していた経験が活かされることにも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、尊厳を守ることを心掛けています。会議などで取り上げるなどして意識づけをしています。	時間がかかっても、「初心を忘れず、笑顔で、寄り添う」姿勢で、言葉かけや対応に、ケアの一つ一つに納得してもらうようこころがけている。自分の親だったらして欲しくないこと、言われたくないことなどを想像して関わっているとされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し、御本人の思いを少しでも叶えられるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など大筋は決まっていますが、御本人が気分の乗らないときは時間をずらして声掛けするなどの工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りなどの声掛けや服装の乱れは声掛けで整えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握し、配慮しています。テーブルを拭いていただく、食器拭きなどを手伝っていただいています。	3食とも、業者からの食材で各ユニットごとに調理している。食材には、旬のものや季節の習わしに沿ったものが届いている。敬老の日には特別な弁当を取り寄せ、季節行事におやつ工夫、畑で収穫したもので一品増やす、サツマイモでいろいろなおやつを作るなど、食べる楽しみへの工夫がある。職員も同じものを食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や形態を職員が周知し、提供しています。 記録や申し送り等で不足分は工夫しながら提供するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行っています。歯科往診などで指導してもらい、磨き残しが少ないよう心掛けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っています。 介助方法は職員間で共有し、自立支援に努めています。	布パンツのみの数人以外はパットや紙パンツを使用し、昼夜のオムツ使用は一人だが、各人の排泄パターンを基に、訴えや仕草などからの誘導で、トイレで座っての排泄を基本とした支援を行っている。退院時の紙パンツにパット状態を布パンツに改善した事例があり、頻尿の訴えにも対応の工夫を重ねている。2年ほど前からの毎朝食時のヨーグルトと牛乳は便通に効果があがるり改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には牛乳を提供するなどしています。時間がある時は体操をするなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事故防止のため職員の数により、時間帯や曜日が決まっています。午前中を午後に戻すなどの要望は合わせています。	週2回を基本とし、午前・午後と日々の状況により入浴タイムを決めているが、極端な入浴拒否は無く希望には柔軟に対応している。寒期のヒートショック対応に配慮し、5人のシャワーチェア浴以外は、浴槽に浸かり、日によっての入浴剤でお風呂を楽しんでいる。入浴を通じたその人との関係づくりを大切にしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも臥床していただいています。寝すぎると昼夜逆転になり得るので、程よい程度で声掛けはさせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所にファイルを置いており常に見れるようにしています。服薬時は、職員間、その後御本人にも確認してもらい誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みを日頃のコミュニケーションの中で模索し、実践できるよう話し合っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが少し落ち着いた時に、おやつの買い出しに出掛けたり、御本人の誕生日ケーキと一緒に選びに行くなどしています。	感染防止に十分注意しての散歩も人材配置の関係で実施は難しい状況にあるが、畑での水やりやテラスでのひと時を、四季の陽や風に当たり季節感を感じる機会と努めている。加齢による筋力低下もあるが、まずは近くの公園でのお花見を楽しみたいと、まん延防止措置の解除を待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近では外出が出来ない為、御本人から後見人に連絡を入れておやつを送ってもらっています。御本人で連絡ができない方は施設からお伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人で電話を所持されている方もいます。御本人からの要望は少ないですが、家族より要望がある時は取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前が畑ということもあり、カーテンを開け、閉塞感をなくしています。騒音もあまりないので、ゆったりとくつろげる環境になっています。	開放感がある中で、騒がしくない、穏やかな暖かい雰囲気のリビングにしたいと、壁面の飾りには季節感のあるものを配し、月1回の習字での作品などを掲示している。長椅子を配置した一角ではテレビを見たり、テラス前で日光浴をしたりと穏やかな日常が窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテレビ前に長椅子を置いて、テレビを観ながら談笑できるスペースを設けています。テラス側に座りながら日光浴をして休まれている方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使用されていたタンスや仏壇など可能な限り持ち込んでいただき、住み慣れた環境作りをしています。	入居前に居室の広さをと既設のベッド・クローゼット・洗面台などを確認してもらい、必要で使い慣れた品々の持ち込みをお願いしている。小タンス・テレビ・仏壇・家族写真などでその人らしく、安全に配慮した居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにはお手製のカレンダーがあり、日にちや曜日が分かるようにしています。		